

# 全力で歩き通せ！折乃笠部長

## 神奈川の歴史を訪ねる徒步の旅

### 【4】奈良時代 海老名～大磯

相模国分寺・国司派遣 中央政府の思惑とその役割について

2015年3月7日(土)

【1】全体計画	1月 1日(木)
【2】神奈川県立歴史博物館	1月 10日(土)
【3】弥生時代 三浦半島	2月 14日(土)
【4】奈良時代 海老名～大磯	3月 7日(土)
【5】鎌倉時代 鎌倉	4月 4日(土)
【6】室町時代 小田原	4月 29日(水)
【7】江戸時代 箱根	5月 25日(土)
【8】江戸時代 浦賀	6月 14日(日)
【9】明治時代 横浜	7月 26日(日)
【10】昭和時代 横須賀	8月 10日(月)
【11】昭和時代 川崎	9月 20日(日)
【12】平成時代～未来へ 横浜～川崎	10月 11日(日)
【13】まとめ	12月 20日(日)



## 1. 今回の旅の目的

相模国分寺。奈良時代、仏教の安泰をはかるために、政府は国ごとに国分寺を建てさせたという。そして国司を派遣して地方行政を実施させた。中央政府の思惑とその役割について、聖武天皇(第45代天皇)が現地に赴き、実情確認を実施する。

## 2. 旅のルート

行 大月駅→(中央本線)→八王子駅→(横浜線)→橋本駅→(相模線)  
→海老名駅

歩 海老名駅→(徒步の旅)→大磯六所神社 30km

帰 大磯六所神社→(バス)→二宮駅→(東海道本線)→茅ヶ崎駅→(相模線)  
→橋本駅→(横浜線)→八王子駅→(中央本線)→大月駅

## 3. 行動内容

6時00分:大月駅出発

7時33分:海老名駅着

7時40分~16時30分:奈良時代を訪ねる徒步の旅 30km

海老名駅→中央公園→相模国分寺跡→寒川神社→前島神社  
→平塚八幡宮→大磯六所神社

16時30分:バスにより二宮駅着

16時40分:二宮駅発。車中反省会。

19時30分:大月駅着



出典:インターネット

#### 4. レポータ自己紹介（聖武天皇）

余は今回のレポータの聖武天皇である。  
右の絵を見よ。ふくよかな良い顔をして  
おるであろう。

次に、右の天皇系図を見よ。

余は、第45代天皇である。

ここで、赤字は女子を示しているが、この時代、持統天皇、元明天皇、  
元正天皇、孝謙天皇など女性天皇が多かった。

日本では平成天皇125代中10代の女性天皇が存在したのだ。

女性天皇は男系男子天皇と男系男子天皇の間をつなぐ女帝中継  
ぎであった。ただし、孝謙天皇のように女性皇太子を経て正式に  
即位した女性天皇も存在したのだ。

遙か未来の平成時代の話をする。皇太子徳仁親王の第一子も女子  
である敬宮愛子内親王であったことから、女性天皇や女系天皇を認  
めるように皇室典範を改正しようとする動きが見られていた。その後  
平成18年(2006年)9月6日に41年ぶりの男性皇族である悠仁親  
王が誕生したが、若い男性皇族不足が解決されたわけでもないため、  
皇位継承問題は終わっていない(問題を先送りしただけ)とする意見  
がある。

余思うに、男子女子に関わらず、日本国民に敬愛される人徳のある方  
に127代天皇になってもらいたいものだ。

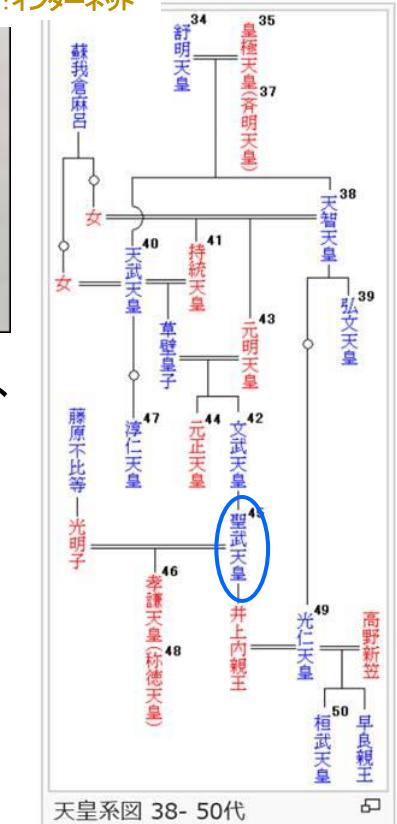
さて、余の身の上話をする。皆の者、良く聞け。

余は、文武天皇の第一皇子として生まれたが、慶雲4年6月15日  
(707年7月18日)に7歳で父と死別、母の宮子も心的障害に陥った  
ため、その後は長く会うことはなかった。このため、同年7月17日

(707年8月18日、文武天皇の母である元明天皇が中継ぎの天皇として即位した。  
和銅7年6月25日(714年8月9日)には首皇子の元服が行われて同日正式に立  
太子されるも、病弱であったこと、皇親勢力と外戚である藤原氏との対立もあり、即  
位は先延ばしにされ、翌亜元年9月2日(715年10月3日)に文武天皇の姉である  
元正天皇が「中継ぎの中継ぎ」として皇位を継ぐことになった。そして、24歳のとき  
に元正天皇より皇位を譲られて即位することになる。あ~しんど。



出典:インターネット



天皇系図 38- 50代



寒川神社 愛子様誕生記念植樹

出典:日本史図録

右の表を見よ。余が生きた奈良時代の政治推移を示している。

余が天皇の時、災害や疫病(天然痘)が多発したため、余は仏教に深く帰依し、天平 13 年(741 年)には国分寺建立の詔を、天平 15 年(743 年)には東大寺盧舎那仏像の建立の詔を出した。これに加えてたびたび遷都を行って災いから脱却しようとしたものの、官民の反発が強く、最終的には平城京に復帰した。また、藤原氏の重鎮が相次いで亡くなつたため、国政は橘諸兄(光明皇后とは異父兄にあたる)が執り仕切っていた。

天平勝宝元年 7 月 2 日(749 年 8 月 19 日)、娘の阿倍内親王(孝謙天皇)に譲位を実施した。これは、余が突然出家したためである。生前譲位(太上天皇)した初の男性となる。

そして、余は、天平勝宝 8 年(756 年)に天武天皇の 2 世王・道祖王を皇太子にする遺言を残して崩御させてもらった。

余の人生 56 年間、波瀾万丈であった。余・聖武天皇、環境的には祖祖母、祖母、叔母、娘が女性天皇であった。これは、余が生前攘夷したことと合わせて、病弱であったことが原因である。また、この事は、余をきわめて熱心な仏教信者にした。そして、その仏教を国分寺や仏像で天皇および朝廷の権威を示すことにしたのだ。国分寺の名は、遙か未来の平成時代、JR 中央本線の駅名にもなっているという。誠に名誉あることだと思う。皆の者に言う。余・聖武天皇のキーワードは、『病弱』、『仏教』、『国分寺』である。

### 1 奈良時代の政治の推移

天皇	政界の実力者		年号	政治
	藤原氏	皇族・他氏		
文武			701	大宝律令を制定
元明	不比等		710	平城京に遷都
			711	善錢叙位令を発令
			718	養老律令を編纂
元正			721	長屋王、右大臣に就任
			722	良田百万町歩開墾を計画
		長屋王	723	三世一身法を制定
			729	長屋王の変
			737	光明子立后(光明皇后)
			740	天然痘により、藤原四子病死
聖武	西子 (武智麻呂・房前・宇合・麻呂)		740~45	藤原広嗣の乱 ④
			741	聖武天皇、あいつぎ遷都 ⑤
			743	国分寺建立の詔 ⑥
			752	聖武天皇私財法を制定
孝謙	橘 諸兄		756	大仏造立の詔(紫香楽宮)
	玄昉		757	東大寺大仏の開眼供養 ⑦
	吉備真備		758	左大臣橘諸兄辞任、聖武太上天皇死去
淳仁	仲麻呂 (南家)		764	養老律令施行。橘奈良麻呂の変
	惠美押勝 (惠美押勝)		765	仲麻呂、惠美押勝の名を賜る
稱徳			769	官名を唐風に改称
(孝謙皇子)			770	惠美押勝の乱 ⑧
光仁	首川(式家) 水手(北家)		780	道鏡、太政大臣禪師に就任
		道鏡		宇佐八幡神託事件
				稱徳天皇死去、道鏡下野薬師寺に追放
				伊治仲麻呂の乱

出典:インターネット



奈良の大仏建立を視察

## 5. 海老名～大磯 徒歩の旅レポート（聖武天皇）

今回、余は折乃笠の懇願を受け、平城京から遙か遠く1300年後の関東の地、相模の国に来た。

ここで、海老名～大磯まで徒步の旅をしろというのか？

余は病弱で自慢ではないが、自分の足で歩いた最大距離は平城京の中の自室から廁までの距離である。

喝！有言実行！余は男性天皇である。女性天皇に負けてたまるか！

30km歩いてみせる。

3月初旬、朝7時40分、小雨のJR海老名駅を出発する。

お付きの者は、誰もいない。平成時代のテレビ番組

“はじめてのおつかい”気分である。不安である。

海老名駅前は、ショッピングモール「ビナウォーク」があり、ショッピング、各種クリニック、サービス施設、映画館、レストラン＆カフェなど充実し、家族連れや友人、カップルで1日中過ごせる複合商業施設がある。

一地方都市にこんな立派な施設があるとは。

相模国は平城京よりも賑やかである。



ビナウォーク

余は相模国には初めて来た。ところで相模国とは？

平城京の国土交通大臣に携帯電話で聞いてみよう。←若干時代想定が混乱気味

「もしもし、国土交通大臣か？余は今、相模国に来ている。相模国について教えよ。」

「これは、これは、聖武天皇殿。御無事でありますか。今平城京は大騒ぎです。」

「結論から先に言え。」

「古代の律令国家は、地方を統治するために国・郡に分け、国府・郡衙を置きました。」

相模国は、大化の改新(645年)の後、相模川流域の相武(さがむ)国造の領域と

酒匂川流域の師長(しなが)国造の領域を併合して成立しました。『伊呂波字類抄』

では国分寺があった海老名市付近に初期の国府があったとしています。」

なるほどね。ところで、余はまだビナウォークを歩いている。

ん～。あれは何だ！国分寺の七重塔ではないか。

ビナウォークの中に七重塔？



モニュメント 国分寺七重塔

これは、相模国分寺の七重の塔を縮小して再現したモニュメントで、高さ 21.97m。本物は 65m あったという。海老名に国分寺有を強調しておるのだろう。 やるなあ～。

遙か1300年後、国分寺を街のシンボルにしているところが気に入った。  
余は、国分寺を作ったかいがあったということだ。  
さて、ここで全国の国分寺について紹介しよう。

国分寺は、741年(天平13年)、  
余が仏教による国家鎮護のため、  
当時の日本の各國に建立を命じた寺院ある。

命じた内容は、各國に七重塔を建て、金光明最勝王経(金光明経)と妙法蓮華経(法華経)を写経すること、自らも金字の金光明最勝王経を写し、塔ごとに納めること、国ごとに国分僧寺と国分尼寺を1つずつ設置し、僧寺の名は金光明四天王護国之寺、尼寺の名は法華滅罪之寺とすることなどである。

尚、JR国分寺駅は武藏国分寺があつた場所である。

国分寺の多くは国府区域内か周辺に置き、国府とともにその國の最大の建築物であった。また、大和國の東大寺・法華寺は総国分寺・総国分尼寺とされ、全国の国分寺・国分尼寺の総本山と位置づけられた。

佛教によって國を守り、繁栄させるというのが国分寺・国分尼寺建立の基本精神なのだ。国分寺や大仏には天皇および朝廷の權威を示す、公共事業、文化の普及、といった政治的意図もあったのだ。

さて、7時55分、相模国分寺跡に着いた。  
平成時代、歴史公園として整備・公開され、一部伽藍の  
基壇や平面形が復元されていた。  
深呼吸をすると、余の生きた奈良時代の匂いがする。  
あ～あ、国分寺は余そのものである。

## 6 国分寺・国分尼寺の分布

### 解説 国分寺の建立

国分寺・国分尼寺の建立はかならずしも順調には進まず、政府は國司の怠慢を叱咤し、郡司に協力を求める詔も出された。それでも、道鏡政権の頃までには、おおよそ完成したらしい。国分寺は國府近くに建立され、現在も遺跡をとどめる。



出典:日本史図録



相模国分寺跡



桜が余を迎えてくれた。いつに時代も桜は美しい。そこで一句。  
『国分寺 余を迎えし 桜花 古代の願い 今に伝えん』

ここで、皆の者を一瞬、奈良時代にタイムトラベルをさせてあげよう。  
これが相模国分寺だ。立派で美しかろう。  
奈良建築学の最高峰である。



出典:日本史図録



相模国分寺 全景

相模国分寺の桜花

さて、次は？

「もしもし、折乃笠か、余の次の行動は？」

「神拝の旅に出て下さい。」

「神拝の旅？ 何だそりや？」

「中央政府より任命された国司は、任国に着くと、先ず最初に神拝と言ってその国の有力神社を参拝して回る制度がありました。この回る順番によって後に、一之宮、二之宮と称されるようになります。国司巡拝の神社の由緒をたずねることによって、律令時代以前にまで遡って、相模国の情景を偲ぶことができるのではないか。さらに、これらの神社周辺には古墳が多く見られ、祭神や古代相模国の豪族、中央権力との関係が想起されます。」

「現地現物。余に国司目線になれという事だな。」

「そうでございます。それでは大磯の六所神社まで29km歩いていただきます。」

「ひえ～！」

「神社概要と航空写真地図をお渡しします。」

「ひえ～！」

「雨の中、御無事を祈ります。」

「ひえ～！ 外は冷え～」

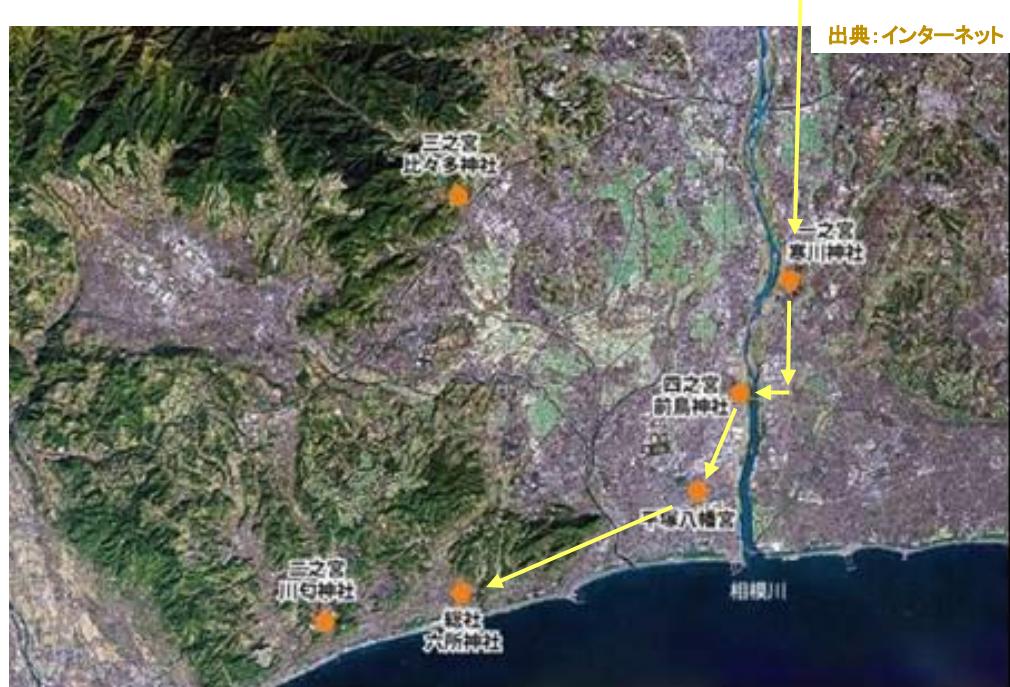
「上手い！ 山田君、座布団一枚持つて来て！」

出典:インターネット

## 国司巡拝の神社

社格	社名	所在地	主祭神	近隣遺跡
一之宮	寒川神社	寒川町	寒川彦・寒川姫	大神塚古墳
二之宮	川匂神社	二宮町	級長津彦・級長津姫	二宮の横穴墓群
三ノ宮	比々多神社	伊勢原市	豊國主	三之宮古墳群
四之宮	前鳥神社	平塚市	菟道稚郎子	真土大塚山古墳
八幡宮	平塚八幡宮	平塚市	応神天皇	八幡宮境内古墳
總社	六所神社	大磯町	櫛稻田姫	—

出典:インターネット



8時45分 神拝の旅に出る。

先ずは、10km先 一之宮・寒川神社を目指す。

寒。途中7-11とやらで、ニットの手袋を買う。あったか。

8時50分

あつ、あれは。お隣中国の…  
始皇帝の兵馬俑(へいばよう)だ。  
兵馬俑は、古代中国で死者を埋葬する際に副葬された俑のうち、兵士及び馬をかたどったものである。  
中国4000年の歴史を感じるなお。  
いつの世も日中友好が大切だ。



兵馬俑たち

雨の中、余は黙々と歩いている。  
道はどこまでも続いている。  
何を考えている？ 哲学？政治？歴史？文化？  
昼、何を食べようかな。  
歩くと普段見られない色々なことが見えてくる。



道はどこまでも続いている

東名高速道路とやらの下を潜る。  
四角の箱の様なものが多く疾走している。  
次に東海道新幹線とやらのガードを潜る。  
何か白い長っぽそいものが、凄い勢いで走り抜けて行った。  
名前を“のぞみ”と言うらしい。  
名前は可愛いいいが、様子は荒馬の様だ。  
まるで、余の皇后・光明子の様だ。内緒。



東名高速道路



東海道新幹線

10時50分

相模国一之宮 寒川神社に到着。  
2時間5分で10km歩いた。まだまだ歩けるぞい。  
相模国司は、こんなに早くは歩けなかつただろう。  
寒川神社は、重厚で大きな神社である。そして、人が少なく静寂。  
本社で余は、日本の民の幸せを祈ったのだ。  
さて、寒川神社は、寒川比古命・寒川比女命の二座を祀っている。  
この地の有力な豪族が造営したものだ。  
雄略天皇の時代に奉幣、また神龜四年(727年)に社殿建立と伝える記録がある。『延喜式』では、相模国十三社のうち、唯一の名神大社とされている。  
雨の中庭は、光り輝いていた。



寒川神社 入口



雨の中庭

11時13分

次の目的地、前鳥(さきとり)神社へ向かう。  
花の咲くきれいな参道を行く。  
雨もあがり、心身共、絶好調である。  
日頃の政の忙しさからのストレスが解放される。



花咲くきれいな参道

12時00分

湘南銀河大橋を渡る。  
何とお洒落な名前だろう。  
さっそく携帯で調べてみよう。

(異議あり、奈良時代に携帯があったのか)  
良いではないか。堅い事言わんといいて。  
『橋の名称は公募され、2371通の応募の中から  
「天にそびえる2本の塔に支えられ相模川をまたぐ  
壮大さと360度の広がりで見渡せる湘南の雄大な  
展望に、無限に広がる宇宙の夢、希望」をイメージした  
「湘南銀河大橋」に決定した。』  
余は、日本人の素晴らしい感性に涙が出るほど感動した。  
相模川は悠々と流れている。長い時代の中を変わりなく、  
川は流れていく。



湘南銀河大橋



悠々と流れる相模川

12時13分

相模国四之宮 前鳥神社に到着。5km歩く。  
前鳥(さきとり)は平安以前の古い地名で、  
相模川の河原に接する自然堤防南端の地形  
を形容している。この地に奈良時代以前、畿内  
から菟道稚郎子命(うぢのわきいらつこのみこと)を氏の上とする氏人が移り住み、命の遺徳  
を偲び、清浄な地に祀ったのが前鳥神社だ。



神社 参道



本社

ここで、参拝する。神社へ行くと必ず参拝する。参拝の意味って何だろう。

神社に参拝することの意味は、そのことによって自分の内面が変わることにある。  
神前で手を合わせ、日常の雑事から離れた空気の中で、自分の心を整えることだ。  
ゴ～ン 鐘の音が聞こえてきた。心が洗われた様だった。

神社内には幸せの松があり、この松は稀に四本の葉をつけ、その松葉を身につけると幸せを運ぶといわれている。



余は、自分の幸せより、民の幸せを望む。

12時25分

出発。

ただひたすら平凡な道を歩く。



幸せの松

13時05分

平凡な道

相模国一社八幡宮 平塚八幡宮に着く。4km歩く。

平穏な日々が続いていた相武国に仁徳天皇の六十八年に大地震があり、里人の苦しみの様を聞いた天皇が国土安穏を祈願して応神天皇の神靈を祀ったのが平塚八幡宮の始まりである。推古天皇の時代にも大地震があり、人々を憲じた天皇は八幡宮に「鎮地大神」の宸筆を賜り、宝剣「天晴彦」を奉納した。

大きな鳥居が象徴的。

木々の緑と本社が見事に融和されている。



人形感謝祭が実施されていた。

その人形の顔も寂しそうであった。



カモとアヒルのオンパレード。

おや？あなたは朱鷺(トキ)？



付属つるみね幼稚園。

木々と土の中、良い子が育ちそう。



13時15分

出発。最後の訪問地 相模国総社  
六所神社を目指す。距離10km。

国道1号線、東海道を西に向かう。



国道1号線 平塚

余は、腹が減ったぞい。

それに寒。何か暖まる物を食したい。

「担々麺とライスをどうぞ」 ← 天の声

.....

余は幸せじゃ。1300年の時を超えて平成にやってきて良かった。

国道沿いになんと、藁葺屋根の家。  
起源はなんと縄文時代だそうだ。  
縄文太郎殿が住んでいたのだ。



藁葺屋根の家



モダンな大磯の街並

14時40分

大磯駅に到着。駅舎もお洒落。  
大磯は、日本最初の海水浴場だそうだ。  
時に明治18年。  
さて、奈良時代に海で遊んでいたか？  
海運は進んでいたが、民が海で遊んでいたかは、余はしらん。



お洒落な大磯駅



日本最初の海水浴場 看板

14時50分

地福寺。梅の花の中に本社がある。  
ほとんど枯れて、根元から割れている老木が  
花を咲かせている。木の生命力に力をもらった。

そして、明治の文豪 島崎藤村のお墓がある。  
島崎藤村は、折乃笠を文学に目覚めさせたという。  
折乃笠からメッセージが届いた。



梅の花の中の本社



老木 今だ 健在



島崎藤村のお墓

「藤村先生。やっとお目に掛れました。  
 先生の小説“新生”で、小生は文学に目覚めました。  
 ありがとうございました。  
 これからも、文学を読み、精神の修行をして参ります。」

15時10分

海に出た。雨に煙っている。

余は、海を見たのは何十年ぶりである。

しばらく、海を観る。

海は、何かを語っている。

それは、たぶん観ている一人一人の心が決めている。



雨に煙る海

15時20分

東海道の松林沿いを歩いている。

レポートは、江戸時代の水戸黄門殿に委ねる。



東海道の松林



田園地帯の一本道

15時30分

田園地帯の一本道に行く。

ここまで来ると、余はもう天皇ではなく、修行僧である。

16時10分

相模国總社 六所神社着。ゴール30km走行。

第十代崇神天皇の頃、出雲地方からこの地に氏族が移住して開墾した。そして、この地を柳田郷(やなぎたごう)と名付け、氏族の祖神である櫛稻田姫命(くしなだひめのみこと)、須佐之男命(すさのおのみこと)、大己貴尊(おおなむちのみこと)を「柳田大明神」として祀った。平安時代に相模の国府が柳田郷に遷されると、五社の分霊が柳田大明神に合祀されて総社「六所神社」となった。



六所神社は、住宅地の中にある静かな神社だった。

総社というだけあって、重厚な雰囲気があった。

大きなしめ縄が威厳を示している。

六所神社

余は思う。

国司はどんなに忙しかろうと、神拝は一社一社丁寧に廻るべきである。

五社の分霊を一か所に集めて総社とし、神拝を一度に済ましてしまうなんて、

言語道断。時間の問題ではない、心の問題である。神の道に反する。

QCストーリーに則って上記の根本的な原因を追究すると、下記律令官制にある。

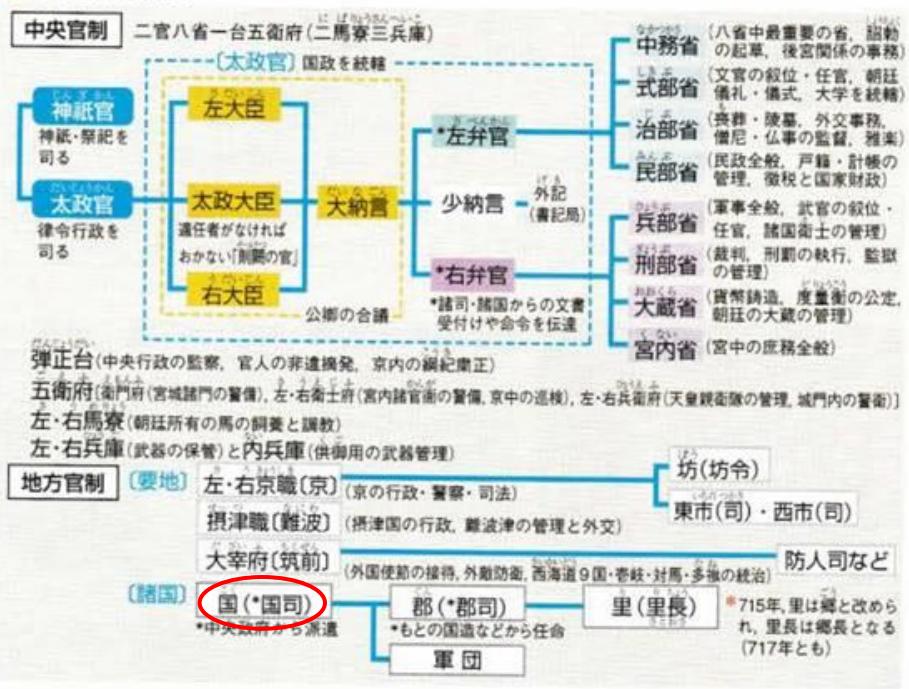
国司は地方官制になるが、それを管理監督する中央官制の省庁がない。

つまり、国司は中央政府から派遣されるものの中央政府の意向に沿わない行動を起こすことができる。

余は、明日、霞が関の総務省自治行政局を訪ね、中央官制と地方官制の関係のあるべき姿を勉強してこようと思う。

出典: 日本史図録

### 3 律令官制



今日、余・聖武天皇は相模国分寺・国司派遣 中央政府の思惑とその役割について相模国分寺視察や相模四神社の神拝を実施した。

平成時代の人々は国分寺の意義、目的を十分理解してくれていて、余はたいへんうれしかった。

神拝では、相模国の神を敬う真摯な精神が理解できた。

21世紀という超高度な文明の中でも、きちんと神道が受け継がれていることに余は日本人の魂がきちんと伝承できていると確信した。

それに引き換え、国司の一括神拝については言語道断。至急、改革を実施する。いつの世も、政治家は何をやっているのだ！

全行程を歩く事により、相模國の人、宗教、文化、自然、交通、生活を現物確認ができた。

目線を民に落とし、歩きながら、自分の五感で感じることができた。

身分に關係なく、色々な目線で物事を見ていく必要があることを痛感した。

それは平成の時代でも同じであり、会社組織でも言えるのではないか。

30kmという、余にとって今まで考えられなかった距離を視察、休憩を含めて8時間40分で走破できた。

目的と目標をしつかり持ち、工程を前向きに楽しみながら実行すれば、

成せば成る何事も。余には大きな成果であった。

神奈川の歴史を訪ねる徒步の旅のレポータに任命していただき感謝申し上げる。

この辺で、1300年前の奈良時代に戻りたいところだが、明日は霞が関、明後日は浦安へ行く予定がある。

一先ず、聖武天皇のレポートはここで終わる。

皆の者、達者で暮らせよ。これから日本を頼むぞ！

歴史はロマンである。

## 6. ご当地グルメ情報（折乃笠公徳）

### 1) お昼の部 13時20分

腹減った、寒い、辛い物が食べたい。

あった、四川料理“飛翔” 雰囲気良好。

担々麺(¥800)とライス(¥200)を頼む。

担々麺、これは美味しい。辛いが味が深い。

ご飯も進む。汗が飛び出した。

あ～あ。美味かった。暖まった。幸せ～。



### 2) おやつの部 I 16時30分

六所神社バス停、二宮駅行バスを待っている。

“神戸やマロン”とポカリスエット。

“神戸やマロン”は前日神戸出張時買ってきたもので

なんと3個で¥1150の超高級菓子。

超美味～。栗が超大きく、周りのパイと超絶妙マッチング。

幸せ～。



### 3) おやつの部 II 16時50分

二宮～茅ヶ崎までの東海道本線の列車の中。

アサヒスーパードライと柿ピーわさび味。

今日はたいへんご苦労さん、聖武天皇も喜んでくれたし。

乾杯～！ 旨～！ 幸せ。

(これで終わらず、相模線の電車の中で缶ウィスキー)



## 7. まとめ（折乃笠公徳）

### 1) 日本・日本人の素晴しさ

#### ①律令官制

奈良時代には既に内閣（律令官制）の骨格ができていた。

注目点は、中央官制が現代に近い組織運営になっている事である。

ただし地方官制については、現代の総務省自治行政局の様な中央官制の管理が必要である。

たぶん賢い日本人であるから、後に設定されたに違いない。

いずれにしろ、仕事分担が明確な組織を作つて、政（まつりごと）を運営している奈良時代の日本人は素晴らしい。

#### ②国分寺

仏教によって国を守り、繁栄させる、そして天皇および朝廷の権威を示す、公共事業、文化の普及といった政治的意図をも持たせる。

良い悪いは別として、コンセプトが明確で、目的がだれにもわかりやすく素晴らしい。

#### ③仏教と神道の両立

仏教は、人生のあらゆる苦から脱するために真理を理解し洞察し、生きる力を得、常に未来のために力一杯生きることという考え方。

神道は、自然を敬い、受け入れ、抵抗しない。山や川などの自然や自然現象などを敬い、それらに八百万の神を見いだす。

日本人は、現代に至るまで見事に両者の良いとこ取りをして、生きる指針としていると思う。（若干、混乱気味な所もあるが…）

3月21日（土）浅草へ行ってきたが、浅草寺の境内の中に浅草神社があったが、まったく違和感なく、両者に参拝してきた。

### 2) 歴史から我々現代人の問題点及び解決策考える。

歴史を学ぶということは、先人の失敗を繰り返さないようにすること、それを教訓にすることである。

日本人は、もっと歴史を学び、自身の素晴らしさを知ることが必要であると思う。

特に天皇の歴史を知るべきである。歴代天皇を調べると歴史を書き換える様な存在感のある天皇もいれば、その当時の権力者に利用される天皇、具族な天皇などがいて、歴史的に非常におもしろい。

今回、聖武天皇の立場で調査・研究をしたが、非常に歴史がわかりやすくなつた。

このレポートを書いている時、ふと気晴らしに大月ダイエーの本屋に行ってみた。なんと、右記の本が書棚にあったのだ。内容は、初代天皇・神武天皇～125代平成天皇までの紹介が丁寧に書かれている。購入奉った。

まさしく、この本との出会いは聖武天皇の思召しかもしれない。



#### 8. 浦安 ディズニーランドの旅（聖武天皇）

1300年前の平城京に帰る前に、兼ねてよりの願いであったディズニーランドに行った。残念ながら、時すでに遅く、入場規制にあってしまい、入れなかつた。が、折乃笠の発意で、舞浜駅前に物語とエンターテイメントにあふれる街“IKSPIARI TOWN”に連れて行ってもらつた。

十分、ディズニーランドの雰囲気を堪能できた。

ハワイアンレストランでは、アボガドハンバーガーを食す、あまりにの厚さに額が外れそうになった。

光明子皇后や娘の阿倍内親王（後の孝謙天皇）に、お土産もいっぱい買えた。余は満足じや。これで1300前に平城京に帰れる。

計画通りにならなくとも、落胆せずに前向きに、別の方策を考えて行動すれば良いと思う。  
それでは、平成の皆の者、さらばじや！

